

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立呉羽高等学校・教諭・近藤 貴久
- 2 研 修 期 間 令和 7 年 8 月 8 日 (金) ～令和 7 年 8 月 12 日 (火) 5 日間
- 3 調 査 研 究 課 題 立山黒部ジオパーク・三陸ジオパークの取り組みを比較し、ジオパークを生かした探究活動の可能性を探る
- 4 研 修 機 関 等 三陸ジオパーク推進協議会、立山黒部ジオパーク協会
- 5 研 修 の 概 要

1. 研修の目的と背景

本研修の目的は、現実的かつ持続可能な、ジオパークを活用した探究活動の方法を探ることである。富山県は標高 3000m の高地から深海まで多様な自然環境が狭い領域に集まる貴重な土地であり、立山黒部ジオパークが設置されている。しかし、この貴重な環境が県立学校の教育で広く活用されていない現状は、富山県の教育にとって損失であると考えている。そこで、海に面する三陸ジオパークの取り組みと比較し、富山県の高校における探究活動として生かせそうな活動を考察した。

2. 三陸ジオパークにおける研修の概要

三陸ジオパークでは、地理的な多様性（大陸由来と付加帯由来の地質、海成段丘とリアス海岸）に加え、東日本大震災の教訓など、多様な資源を活かした教育活動を展開していた。

(1) 宮古・ニュートン・サマースクールの視察

宮古市教育委員会主催の科学体験活動で、三陸ジオパーク推進協議会が「さんりくの化石について知ろう」ブースを運営。

岩手県で発掘される化石についての講義と、アンモナイトの消しゴム作りの実施。

子どもたちは化石の実物に興味を持ち、活動に積極的に参加していた。恐竜関連の活動は、生徒の興味関心を効果的に引くことを確認した。

(2) 学校・教育委員会等と連携した教育活動

小中高大それぞれの教育機関に向けた取り組みを実施。

小学生対象：「さんりくジオパークかわらばん」の作成、表彰、展示。

中学校対象：「三陸ジオパーク野外学習テキスト」の作成。

高校：岩手県立宮古高等学校「総合的な探究の時間」での講義・見学の運営。

これらの活動から、三陸ジオパークの存在が地域の中で「あたりまえ」のものとして根付いていくだろうという印象を受けた。

3. 立山黒部ジオパークにおける研修の概要

立山黒部ジオパークは、狭い範囲に標高 3000m 以上の地域と深海が集まる変化に富んだ環境や、水にまつわるジオサイトが多いことが特徴である。

(1) 入善高校と連携した探究活動の実例

文系（観光ビジネスコース）：観光基礎フィールドワークを年 6～7 回以上実施。生徒は地域に繰り出し、人々の声を聞き、地域を活かす観光方法について考察・プレゼンテーション。ジオパークが地域文化やその背景の解説等において支援。これは地域でのフィールドワークを活かした優れた先例である。

理系（自然科学コース）：1 年次に立山研修を実施。理系の探究活動は、普遍的な成果を出すのに時間がかかるため、地域に根ざした学びを 3 年で体験させるのは難しい。文系のように「防災」「農業」「環境保護」などに観点を絞ることで、活動の組み立てやすさが向上する可能性がある。

(2) 立山黒部ジオパークの取り組みについて

目標の一つとして、観光などで多くの人を富山県に呼ぶことがある（例：雪を活かしたかんじきツアー）。教育活動として、入善高校への協力の他、小学生対象にジオサイトを紹介する看板を募集し、実際に掲示する等の取り組みがあった。古生物化石の研究が進んでおり、日本

最大規模の足跡化石群が発見されている。富山県と新潟県の県境を流れる境川の転石には化石が含まれ、流れが激しくないため、子どもたちの化石探し体験のよい場所になる。福井や岩手のように、境川も発掘体験を通して教育・観光に利用できる可能性がある。

### (3) 探究活動に活用できそうなジオサイトの視察

黒部市地域観光ギャラリー：2階から見下ろせる大きな富山県の立体地図があり、地形教育に非常に有効である。ミニチュア版を作成できれば、校内での使用や持ち運びも可能になる。

愛本橋：黒部川扇状地の上端に位置し、晴れていれば扇状地から海までを一望でき、地域の現実のスケールや地形を体感させる貴重な場所。

### (4) 探究活動に関するグループワーク

ジオパーク側は、教員側が生徒に何を見せたいか・考えさせたいかを絞り、ゴールの設定（研究結果までか、まとめまでか）を明確にすることが協力を依頼する上での重要な点であると指摘があった。地域や学校との協力はジオパークの大きな役割であり、積極的に依頼を歓迎する意向が示された。

## 4. 研修を終えて（今後の展望）

両ジオパークとも、地域の資源を活かした積極的な活動に取り組んでおり、探究活動への協力には非常に前向きであった。学校側が「生徒にどんな力をつけることを目標として、何を学ばせたいか」を明確にすれば、実行可能なプランを提示してもらえる。

富山県の高等学校の探究活動として活用したいと考えたものは以下の4点である。

①境川における化石採掘

②地域に繰り出し、人々の声を聞くフィールドワーク（文系）

③過去の災害についての痕跡、記録について学ぶこと

④地形のミニチュアを活かした、地形と災害・産業の関係の講義

今年度はまず地学基礎の中で、上記の③に関連して、立山黒部ジオパークから講師を招いて授業を実施したい。まずは講師に、鳶山崩れや神通川を題材として、どのような災害の地質的な痕跡や文献記録、災害に由来する風習が残されているかについて教科横断的に講義していただく。その後、もし自分が引っ越して新しい土地に住んだ場合、どのようなことを調べれば、その土地で巻き込まれる災害について知ることができるかについて考察させる。授業後には「地学基礎で習ったことを日常生活の中で活かしてみたくなったか」「これまで以上に理科や歴史の授業に興味をもてそうか」といった項目のアンケートを採り、生徒の向学心や探究心、学びを活用する姿勢を育む上で、ジオパークを活かした活動が有効であるかを評価したい。

いずれは、上記のようなジオパークを活かした探究活動を様々に実施し、生徒に与える影響を検証した上で、高教研や北信越理科教育研究会等で発表することで手法・結果を広く共有し、より多くの学校現場でジオパークを活かした活動が実施しやすくなるようにしていきたい。